

サイエンスカフェニュース（第3号）

今月のサイエンスカフェはオルコスホール1階で開催します！

教職員・学生が自由に参加できる「サイエンスカフェ」を定期的で開催しています。研究計画デザインサポートや具体的な助言、研究費公募に関する情報提供など行なっております。

6月のサイエンスカフェは、6月18日木曜日16時30分から、オルコスホール1階エントランスにて開催します。これまで開催していた第2ビルの会議室は、新たに発足する「臨床研究データセンター」となります。

7月のサイエンスカフェは、7月17日（金）16時30分から、総合医療センターにて出張開催することになりました。もし具体的なご相談をご希望の場合、あらかじめご連絡ください。

（smu_rac@saitama-med.ac.jp）担当者を確保します。サイエンスカフェ以外でも随時ご相談をお受けしております。

統計関連研究支援教材のご案内

研究活動を進める中で、「どの解析方法を用いればよいのだろうか?!」「解析結果をどのように解釈すればよいのだろうか?!」など、統計解析について悩まれる場面もあるかと思います。

センターではこれまで、研究計画の立案や統計解析に関わる方を対象に、統計関連セミナーを実施してまいりました。現在、研究関連の教材として、計21回分のセミナー動画をご視聴いただけます。

内容としては、生物統計学の教員が、「臨床研究における統計学の必要性」「交絡とは何か、交絡の調整方法」といった研究デザインに関わる重要なテーマから、研究結果を適切に解釈するための考え方、解析結果の読み取り方まで丁寧に解説しています。さらに、ご相談の多いサンプルサイズの設定、相関と回帰、傾向スコアマッチング、予測モデル、費用対効果分析、データベース研究の初歩など、近年用いられることの多い手法に加え、看護研究を含めた最近の研究動向にも触れながら、幅広いテーマを取り上げています。

臨床研究における統計の基礎から応用的な内容まで学べる教材となっており、初学者の方にもわかりやすい内容です。これから研究を始める方はもちろん、研究を進める中で統計解析等に悩んだ際にも、ぜひご活用ください。

統計関連セミナー

- ① 2023年 医療統計セミナー : <https://x.gd/n35dU>
- ② 2023年 臨床研究に必要な統計学セミナー : <https://x.gd/UhDhY>
- ③ 2024年 統計関連セミナー :
https://www.youtube.com/playlist?list=PLSw3fNiW1A_5VGJv5mbWXxB1f_xGeJhaC
- ④ 2025年 統計関連セミナー :
https://www.youtube.com/playlist?list=PLSw3fNiW1A_7lA0W92ZZPHebN4J078Qbm

学習用として、また研究計画立案からデータ解析までの参考教材として、ぜひご利用ください。今後も、研究支援を目的とした関連セミナーを企画してまいります。

お問い合わせ先 担当者：大学院生物統計学 講師 仕子 優樹
内線：41-3241 メールアドレス：biostatistics@saitama-med.ac.jp

本学発の論文紹介—*Science from SMU*

研究統括センター 特任准教授 小野 弥子

研究活動の成果を世界に発信する形態の一つとして学術論文があります。最近、本学からはどのような論文が発表されているのかについて、今回は、データベース PubMed からアクセス可能な英語論文を情報源として、2025 年度の成果概要^{注1)}をご紹介します。

2025/04/01~2026/03/01 の間に登録された「本学所属の方が筆頭著者である」論文は 461 報でした^{注2)}（著者名リストの 2 番目以降に登場しているも”equally contributed”との注釈があるものを含む）（図 1）。この 461 報を大きく分類すると、何らかの結果をもとに執筆される Research Article、Case Report が約 90%を占めています。数は少ないのですが、映像データを伴うメソッド論文などもありました。

筆頭著者の方の所属部門ごとに見ると、3つの病院では Research Article と Case Report がほぼ同程度に寄与して発表数全体の約 90%を占めています（図 2）。また、Research Article の中には、“Comparative Study”や”Multicenter Study”など医学的エビデンスとして位置づけられるものが含まれます。このカテゴリーがどの部門からも一定の割合で発表されている点は、医科大学ならではの研究スタイルを反映しているかもしれません。

各部門ともに非常に多くの専門分野を含むので、研究テーマについて総観するのは（トライはしましたが）難しかったです。来月からは、各論的ではありますが、最近の発表論文の中から、分野の垣根を越えて興味を持たれそうな研究成果をご紹介します。

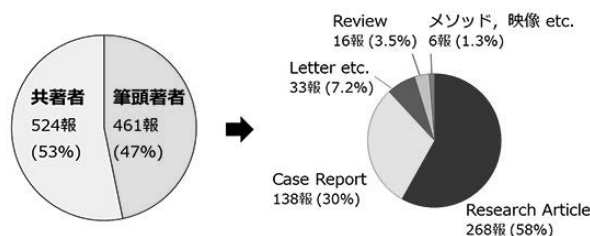


図1. 2025年度に発表された論文の分類

Total 985報。筆頭著者の所属として”Saitama Medical University”が含まれるものについて精査した。

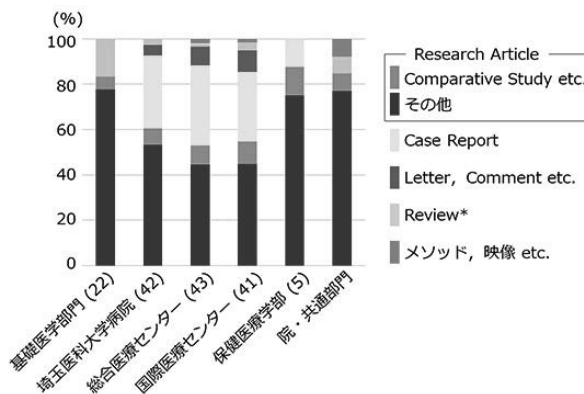


図2. 部門ごと論文種別の傾向

1年間の発表論文総数に占める割合を示した。

(数字), 構成する基本学科、診療科、などの総数。

*, Systematic ReviewおよびMeta Analysisを含む。

注1) 今回まとめた論文リストについては、大学年報を参考に基本学科や診療科との紐づけを行っています。

お役に立てることがありましたら是非お知らせ下さい。

注2) 筆頭著者ではないが「責任著者」として参加している、という論文も本学の研究成果を伝えるものですが、今回は都合により含めていません。

知的財産シーズ紹介

埼玉医科大学 研究統括センター 2026 年 6 月号

今月号では、公開された注目の知的財産シーズを 2 件ご紹介します。

シーズ① 膵炎リスクをゼロに——糖尿病治療の未来を拓く

膵島辺縁部への選択的核酸導入技術（埼玉医科大学・群馬大学 共同研究）

十二指腸のファーター乳頭から膵管へ核酸含有液を注入し、エレクトロポレーションと核移行促進剤（TCHD）を併用。膵臓への針刺しなしに、標的の辺縁部 β 細胞のみへ高精度で核酸を届けます。

- ◆ 主な利点 非侵襲で膵炎リスクを根本回避／辺縁部未成熟 β 細胞へ高い特異性・効率／非分裂細胞にも対応／DNA・RNA・CRISPR-Cas9 等に対応
- ◆ 活用シーン 創薬スクリーニング基盤／ゲノム編集研究／ β 細胞再生・機能回復の解明／糖尿病治療薬の新規開発
- ◆ 知的財産 特開 2026-59282 「核酸導入方法及び膵島辺縁部に核酸を導入する方法」（出願人：埼玉医科大学・群馬大学）

シーズ② スマートフォン撮影で完結！AI が尿流を高精度に解析

非接触・在宅モニタリング技術（埼玉医科大学・埼玉大学 共同研究）

スマホカメラで撮影した映像を「アクシススイッチング現象」に基づき AI（機械学習）が解析。病院の専用装置なしで、尿勢低下時でも誤差 $\pm 10\%$ 以内の高精度で流速・流量を推定します。

- ◆ 主な利点 非接触・衛生的で器具不要・スマホで毎日記録／誤差 $\pm 10\%$ 以内の高精度／尿勢低下時も安定計測／クラウドで電子カルテ・遠隔共有
- ◆ 活用シーン 泌尿器科の診断・治療支援／デジタルヘルスケアアプリ（SaMD）／高齢者施設・在宅介護の排尿モニタリング
- ◆ 知的財産 WO 2026/094791 A1 「尿流の流速および／または流量を推定する方法および装置」（出願人：埼玉医科大学・埼玉大学）

【お問い合わせ・連携・ライセンスのご相談】

研究統括センター 講師 菅原 哲雄 外線：049-276-2073 内線：41-2717 Mail：smu_ip@saitama-med.ac.jp

外部資金研究費の獲得状況

令和 8 年度科学研究費には、応募 197 件（学術変革（A・B）1 件、基盤研究（B・C）153 件、挑戦的研究（萌芽）2 件、若手研究 41 件）があり、採択課題は 63 件、採択率は 31.97%でした。採択者の詳細はこちらからご確認ください。

< 令和 8 年度科学研究費助成事業交付内定一覧 >

※埼玉医科大学学内報 第 245 号 抜粋



研究統括センターに新たに加わった URA のご紹介

このたび、本学に新しく2名のURAが加わりましたので、ご紹介します。国の研究ルールが厳しくなるなか、専門知識で応募やマネジメントを支える人材の確保はとても大切になっています。今後は「オール埼玉医科大学」として臨床・橋渡し研究の促進や人材育成を進めるとともに、大学院生物統計学とも連携していきます。統計教育を推進し、皆さんがより研究に打ち込めるような支援体制づくりを目指します。

<< 特任教授・URA 山中 武志 >>



この度、URAとして着任いたしました山中武志です。私は製薬企業にて30年以上にわたり創薬研究や組織マネジメントに携わってまいりました。有機合成化学の学位（PhD）に加え、経営学修士（MBA）や米国留学の経験を持ち、公的機関への出向など多分野のキャリアを歩んできた点が強みです。

これまで客員教員として本学の業務に携わってまいりましたが、今後はURAの立場で、これまでの知財の知見やネットワークを活かし、外部資金獲得や企業との共同研究を実務レベルで強力に牽引いたします。研究成果の戦略的な保護と活用体制を構築し、社会実装への「橋渡し役」として本学に幅広く貢献してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

<< 助教・URA 小坂井 和歌子 >>



この度、研究統括センターのURAに着任いたしました小坂井和歌子です。中京大学大学院で運動生理学を専攻後、名古屋大学や防衛医大等で分子生物学の研鑽を積み、2020年より本学腎臓内科の実験助手、2022年からは社会人大学院生として、国際学会発表や筆頭著者での論文掲載、特許出願などの研究に粘り強く取り組んでまいりました。

これまではプレイヤーとして活動してまいりましたが、今後は伴走支援者として見識を広げ、本学に貢献したいと考えております。長年のラボマネジメントや技術指導の経験を活かし、研究計画立案から知財申請、若手研究者の実務・技術サポートまで、本学の研究推進に尽力いたします。よろしくお願いいたします。

サイエンスカフェニュース バックナンバー

第1号 PDF <https://simc-saimata-med.box.com/s/p3uum37xsc15j9gidekacine78wx3poyv>

第2号 PDF <https://simc-saimata-med.box.com/s/gtwiqpgftlcyc7rgj5z7hygm01m0xb4b>

発行日：2026年6月5日

編集責任者：研究統括センター特任教授 松下 祥

連絡先：研究支援室 smu_rac@saitama-med.ac.jp